

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報			
ふりがな	せきね ゆうき		
氏名	関根祐貴		
所属	株式会社船井総合研究所 地方創生支援部 自治体支援チーム		
役職	チームリーダー		
活動エリア	全国		
連絡先	住所	〒	104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー 35階
	電話番号	080-6239-6466	
	メールアドレス	y-sekine_aa@funaisoken.co.jp	
キャッチコピー	東京と地方の両方を元気にしたい！		
自己PR	多様な住民が安心して生活を送ることができる社会を実現するためには、その基礎となる自治体自身が活発に活動できるような商業、観光、農業等の地盤を作っていかなければなりません。 私がこれまで培った自治体アドバイザーに関する知識に加え、弊社の10,000社以上の業種別業界別ノウハウを取り入れた効果的な自治体活性化支援をご提供いたします。 ぜひあなたの地域が未来へ向かって進んでいくお手伝いをさせていただければ幸いです。		
関連ホームページ	名称	アドレス	
	株式会社船井総合研究所	https://www.funaisoken.co.jp/	
	シティプロモーション自治体等連絡協議会	https://www.citypromotion.jp/	
2. 略歴・受賞歴			
略歴・受賞歴	<p><経歴> 埼玉県出身 埼玉大学教育学部卒業 ●2009年 埼玉県庁入庁 ●2015年～2016年 さいたま人づくり広域連合政策課題共同研究研究員 ●2018年 株式会社船井総合研究所入社～現職</p> <p>シティプロモーション自治体等連絡協議会事務局 事務局長 <2020年> 地域総合整備財団 地域再生マネージャー登録 総務省 地域力創造アドバイザー登録</p>		
3. 取組分野			
● 観光	(水産資源を活用したB級グルメイベントの企画実行)		
● 移住・定住・関係人口	(シティプロモーション計画及びアクションプランの策定及び実行)		
● 農林水産業	(農産物のブランディング及び文化との融合の計画策定と地域住民とのワークショップ実施)		
起業支援	()		
まちなか再生	()		
集落再生	()		
環境	()		
その他	()		
4. ふるさと財団での実績			
外部専門家 (活用助成)	◆2019～20年度 群馬県館林市 文化connectたてばやし～食文化をつなぐ・未来をつなぐ・未来をつなぐ～		



5. 取組内容・実績

取組内容・実績	<p>【取組事例①】</p> <p>(1)事業名 : 芦屋町No.1プロジェクト実施支援業務 (2)対象地 : 福岡県 芦屋町 (3)事業目的: 芦屋町の水産品である「さわら」を用いた地域活性化を通じまちの稼ぐ力を醸成するとともに交流人口の創出を目指すもの</p> <p>(4)事業内容: ①西日本ご当地さわらサミットの実施 ②同サミット試食会(メディア露出)の実施 ③九州女子大学・九州女子短期大学との連携 ④商工会が中心となって飲食店を回る企画「さわらフェアスタンプラリー」の実施</p> <p>(5)事業による成果: 2日間のイベントを通じ人口1.4万人のまちに延べ1.1万人を集客。イベントグルメ6,300食の提供。 単純経済効果で直接の経済効果では、近隣市町村、県内、県外に大別した場合、約3,900万円の効果があつたと試算。 また間接の経済効果では、TV放映、新聞掲載、雑誌掲載等を助案すると 約3,600万円前後の経済効果があつたと試算。 よって合計では約7,500万円程度の経済効果を創出した。</p>
	<p>【取組事例②】</p> <p>(1)事業名 : 令和4～6年度橋本市シティプロモーション推進業務 (2)対象地 : 和歌山県 橋本市 (3)事業目的: 橋本市シティプロモーション計画の策定によるまちの情報発信の強化を行い、関係人口・定住人口の維持増加を目指すもの</p> <p>(4)事業内容: ①橋本市シティプロモーション計画の策定及びアクションの策定・実行 ②橋本市役所職員を対象としたシティプロモーション研修の実施 ③シティプロモーション庁内推進会議の運営 ④庁内広報誌「とらいな橋本」の発刊</p> <p>(5)事業による成果: 橋本市公式LINEの発信件数は業務前では4記事程度/週であったものを20記事/週程度に増加させた。これにより公式LINE登録者数は2年間で3,000アカウント→14,000アカウントへ増加した。職員研修により職員の情報発信へのモチベーション向上と具体的な技術の講座を実施したことにより、公式HPや市民向けのチラシの品質が向上。市民に対する情報発信の質が強化された。 橋本市職員の情報発信に対する意識調査では、橋本市が積極的に情報発信を行っていると回答した職員の割合は95%に到達。職員の意識醸成に大きく寄与した。</p>
	<p>【取組事例③】</p> <p>(1)事業名 : 令和元年度「百年小麦ブランド化」戦略 (2)対象地 : 群馬県 館林市 (3)事業目的: 地場農産物である百年小麦の販促を通して館林市に麦食文化を醸成するもの (4)事業内容: ①百年小麦ブランド化委員会の運営 ②百年小麦販促物の作成(チラシ・ポスター・のぼり・下敷き・百年小麦検定) ③百年小麦商品開発(＋一品メニュー、菓子メニュー) ④麦祭り・うどんサミットへの出店計画の策定 ⑤百年小麦の給食導入 ⑥中学生を巻き込んだ百年小麦収穫体験の実施 ⑦百年小麦HPの立ち上げ</p> <p>(5)事業による成果: 百年小麦ブランド化委員会を通じて百年小麦の拡販に努めた。アドバイザーの主な役割は百年小麦ブランド化委員会の委員会運営であり、主体はブランド化委員会の各委員が行っている。 これら各種取組が評価され、2021年には群馬県より「麺のまち『うどんの里』振興会」が表彰された。</p>
	<p>※上記以外の取組内容・実績</p>